

モヤモヤボード_コメントリスト (2/1-3/9)

- ・ 使命感と責任と人生
- ・ 被災状況のちがいによる、“共感”の不安定さ。その“共感”“わかる”は本当か??
ムリに“わかろう”としなくてもいいのに…。それは“わかったフリ”に見えてしまう。
- ・ 不安
- ・ 心から“想像してみる”ことってすごく難しい。
- ・ 分からないことを分からないまま一時的な情報におどらされる人たち
- ・ 避難所でのペット同伴
 - ・ まだそこに残されてるペットは大勢いる。
 - ・ うん
- ・ 責任
- ・ 日本国政府は何が起きても「想定外！」
- ・ HOPE
- ・ 「見えない」という恐怖
- ・ 福島沿岸があまりにもきれいに舗装されている…それがわるいこととかはわからない
- ・ とうとう発生してしまった
 - ・ ↑そうですね。何年も前から大きい地震の可能性があるとされていました。
- ・ 誰かのせいにしない
- ・ 科学と宗教
- ・ 本当の多様性って何だろう。
- ・ 信じられるエネルギーと人類の未来
- ・ ボランティアに行った時、同行していた会社の先輩が、被災した家をパシャパシャとカメラで撮っていた時のどうしようもない嫌悪感… 記録は大事、と今では思うけど、受け入れられなかった
- ・ 電気はだいじ。
- ・ 仙台很棒的都市 祝福大家 幸福美満 台湾 JR
☆仙台は素晴らしい街です、皆さんの幸せをお祈りします
- ・ この手の話になると、政府やマスコミ、電力会社、批判が多いですが当時現地で仕事していた身からすると被災者も支援者も十分に醜かった。人間は醜いと認めてから考えていきたい
- ・ 自然災害！
- ・ 被害が少なくて居心地が悪かった。
- ・ 日記でも付けときゃよかった（当時の手帳を見ても真白け！）
別に心情なんかいいから、どこに行って、何を食べて、いくら払ったかだけでも書いときゃよかったな。能登の人でも後悔しないように て言いたいが、やはり、そんな余裕なんかないんだらうなあ…

- ・能登半島地震でまたもや原子力発電所の問題が浮上していながら、なぜ日本は原子力の根本的なリスクに気が付かないのか 電気不足、節電問題
 - そこまで原子力を推すのであれば安全性について再考すべき
 - ・1人1人の尊厳を大事に大切にしてほしい。どんな人であれ。
 - ・あ～いやだな…自分に起きた時をイメージしてしまう…
 - ・悪夢
 - ・“日常”に戻りたい思いを報道などで“特別扱い”されることのモヤモヤ
 - ・この世界に誰もが納得できる完璧はない …なのに今の社会は0か1かに感じる
 - どちらかにはっきりと偏ることは正しいことなのか？妥協を学ぶべきでは。
 - ・ひなんグッズのかくにん。
 - ・がんばろう日本
 - ↑何をがんばるのか？
 - ・日本政府への”不安“ 将来どうになってしまうのか
 - ・幼くて何が起きているのか分からず、当時は怖いとも思えなかった自分が今少し怖い
 - ・こわい
 - ・科学技術に対し特に知ろうともせずに絶対的な信頼をおきすぎ…？
 - 何事にも十と一があるためその物事について知らないままでいるのは怖い
 - ・内陸の被害について、(例えば折立や南光台や長町など) 県外にほとんど報道されなかったこと。他県人に仙台市内は何もなかったと言われた
 - ・これから何が起きるんだろう…でも未来は明るい！！
 - ・…でも人間って不思議と「特別扱い」されたい生き物なんちゃう？
 - ・毎日がこわい
 - ・“分からない”ことを知ろうとせずに誰かのせいにして“勝手に納得”していないか？
 - ・仙台が地元で東京で被災しました。
 - あの時のどこか他人事感の人の中で過ごすことのつらさ 今でも消化できていないです
 - ・いじめ
 - ・東北大受かるか不安
 - ・大好きだった本やコンプリートしたマンガ 津波で全部流された。
 - けど、生きてるし、普通に生活できてるし、時々、「そういえば」って思い出すけど—
-
- ・根拠
 - ・小学校や保育所について記録や統計があるのに児童館については、ない。(仙台市)
 - スタッフもいれかわってる。団体ごとじゃなくて、あの時どうだったのか記録残したい
 - ・震災前に戻ることが復興なのか？
 - 震災を、一通過点や一事象とし呑み込んでしまうことが復興か？
 - 多義的になってしまった『復興』とは？

- ・知らない人とも会話したこと。行列の時や 郵便局の前にいた時
余震がきた時歩道橋の上において、知らないおじさんと声かけあった
- ・知らない人が無事でも泣けた。
- ・あたたかさがほしかった
- ・原発利権
- ・欺瞞にみちてるのが悲しい！
- ・昨日までに帰りたい
- ・Fear,Confusion,HELPLESSNESS
-We have no control over such events.
☆恐怖、混乱、無力さ
—私たちはこのようなことに対してどうしようもありません。
- ・人間の無力さ…
- ・原発事故の事を知ったのは、雨が降った時だった。
近所の自衛官の方が外に出るな—と教えてくれた…
- ・正直
- ・幸せってなに？
- ・「静かに隣に立つ」「良き隣人になる」ものくらいの「理解」
- ・就活
- ・明日も 10 年後も未来といえば未来。
想像は出来なくとも少しずつ創造していく未来。
- ・人それぞれだよなって
- ・あの日はこわかった。
どうしていいのかわからないまま、日々を生きていた。みんないらだっていた。
→その怒りの吐け口にされたトラウマは生涯消えない。
- ・どうしても女性はナプキンが必要になるから災害が起きた地域では買えない。どれだけ
つらいか男には分からない。
 - ・トイレのプライバシー管理
ブルーシートで区切られていたから、性犯罪もおこりやすかった。
- ・妊娠中でストレスになる情報は、みないようにしていた。
今、何も学んでいなかったこと、考えていなかったことに後悔している。
- ・女性のひんこん ナプキン
- ・脱税
- ・“ライオンがにげた”みたいなデマ情報なんでやる？必要ある？
だれもとくしない。あざわらうだけ
- ・外に出たい。時間をムダにしたくない。

- ・どこからが“被災者”でどこからが“部外者”か
内陸部は当事者か、「当事者性」はどのように獲得されるのか。
- ・死にたくない
- ・役に立てなかった
- ・ナントカナル
 - ・↑そうだよネ！
- ・あの日から今日まで一日も忘れたことはありませんが、「もう13年」なのか
「まだ13年」なのかそれとも「ようやく13年」なのか。そんなことを考えています。
- ・猫がいるからネ～。ゴハンだけではなくトイレ（猫砂）、お水入れ、鳴き声 も持って
ヒナンはできんわ。
- ・原爆落としたアメリカと同じではないか…と心の底で思っている。
- ・世界和平
- ・災害 防災グッズ
- ・将来への不安
- ・防災グッズなどをじゅんび
 - ↑
 - 災害から守る
- ・希望
- ・再稼働よろしく
- ・あの日、漁船に退避の声をかけながら、漁船の後から、追って行く、巡視船、自衛隊の
働きだけが、持て栄やされていましたが、海上保安官を忘れることは
できない。
- ・震災になじみのない地域の方々に自分の経験をどのように伝えるか
- ・震災の年に出産し、子育てに追われ、今やっと向きあえる時が来たように
感じています..
- ・実家にいたときは当たり前だった“家族”がいなくなり1人であることの不安
何かあったらどうしよ
- ・心配事が多いこと
- ・神戸出身で、過去にいちど被災した私。「命が今あるのは偶然かもしれない」と
思ってしまう。次の地震のときは…？
- ・日本経済の停滞と政治責任
- ・東北の復興費をウクライナに渡す、正気？
- ・勉強したことを時間が経つと忘れてしまうこと。繰り返しやるしかないのかなぁ。
- ・あなた。
- ・キャッシュレスよりげんきん（こぜに）がやくだつ！

- ・なんで女性にもっと支援をしないのか。一回ナプキンを交かんしただけで不衛生だし、病気にもなる。
- ・もやもや
- ・何もかも下らなくなる時がある
- ・なんで、いつも”東北”ばかりに責任（放出 放置）が “東京”の責任はお金だけ？
- ・もやもや…
- ・当事者（被災者）にならなかった人が、“偽善”でも”エゴ”でもなく、何が当事者にできるのだろうか？
 - ・↑外野だから声を出さないとか、じゃないと思う。「そこに愛はあるんか？」
- ・大切なことはみんなちがくて 理想とするよの中もみんなちがくてちがうことがかなしみをうむことがかなしい
- ・「中野小学校へ避難した 600 人の人達と過ごした 24 時間」蒲生地区の記録を読んで欲しいです
- ・いま気になっていること
 - 震災や原発の被害をうけた、うけていない保障がない、あるすべての悩みはその主張（自分）が大切にされていないと感じるからではないでしょうか？おざなりにされることに怒りがあると思います
 - 個（自分の主張）を示さない、殺すという性質が特に北の人は強いと思います。そのもやもやが、この震災や原発を通して明るみにでたのではないのでしょうか？
- ・原発事故は隕石が落ちるくらいの確率だと言われていたが…。何を信じれば
- ・事故ではなればなれになってしまった子どもたちについて
- ・いざ災害が起きたとき自分はどうする？困ってる人をどうする？何もできない。
- ・脱原発は？ ～大きな力・流れにはあらがえないか？
- ・100%カンペキに除染できないならいっそ同じ場所に原子力発電所を作ってしまうのはどうか？
- ・人間は自然をコントロールできると思っていたが思い込みだった。
- ・経験してない・無知ゆえの無力さ
- ・備蓄の大切さに気づいた。
- ・PTSD・孤立無援感
- ・3.11の時に感じた原発の恐怖・矛盾を思い出そうぜ！
- ・原子力発電は発電方法としては優れているけれど、3.11の事故のようにリスクが高い。どうすれば防止できたのか 何故起きてしまったのか。
- ・計画性の無さ（自身の）
- ・利己利他
- ・いつも笑えんでいたい

- ・でも結局みんな、この時期にならないとこういう話をしないよね？
- ・いつまた起きるか分からない。なんだかんだ言って、原子力発電を止めることはできない。どうすればいいのか。
- ・また大地震がくるという怖さ！！かなー
- ・「放射能怖い」で宮城入りを全くしなかった
- ・絆、トモダチみたいに、ポジティブな言葉にひとまとめにされるのにモヤ
- ・空き巣がいること
- ・我々が一番知りたい情報は我々ではなく、被災していない地域の人の方が知り得ていた
- ・巨大堤防 海がちゃんと見える町に暮らしたい
- ・脱原発の理想とエネルギー問題という現実 理想と現実どちらを優先しどう妥きょうするか。
- ・たくさん書きたいことがあったがこのスペースでは足りません。3月9日に一緒に話してみたい……
- ・自民党政治に復興は無理。
- ・津波にあっていないと弱音もはけない。地元の景色がうばわれた事を悲しんじゃダメ？
- ・きしださんは自分の事だけですか？東北に考えはないんですか？？
自分の事のように考えて下さい。
- ・負けるな
- ・でも命……あれば！！
- ・東京電力様 もっともっと本気になって対処してください
- ・地震、こわい！！
- ・分からないという恐怖
- ・あたり前の毎日がどんなに幸せなのかわかった。放射能は見えなくて怖かった。
- ・東北にゆかりがあるわけでもなく、知り合いがいるわけでもないが、震災のあれこれについて考え、感じたことを自分なりに持っている。
それをどのように共有すれば誰かを傷つけることなく思いを伝えられるのか、わからない。
- ・雲のように無数に流れていて、つかみどころのない、不安
- ・当時大きな被害を受けた人々がどれほど辛かったのか、被害の少なかった私はどこまで知ることができるんだろう どこまで知るのが正しいんだろう
経験の有無でできた溝は埋められないのか
- ・原発などいらん！No Nukes.
- ・13年！あの3月11日仙台市内に居ても恐かった、仕事場もビルがこわれ失業。
何とかここまで来ました。
- ・13年！あの3.11 仙台市内に居ても津波に流されました。

- ・ 小学校でみんなで一斉に甲状腺検査をやった。何回もやった。
検査でベッドの上に横たわっている間、なぜこの検査をやるのか、これによって何が判明するのか、当時は全くわかっていなかった。
- ・ 安心、自由、安全、命 心も体も。何も変わらない。あの日から。
- ・ 災害大国であるにも関わらず東日本でも能登でも避難所の環境はひどいままだしボランティアだよりでことが進む もちろん助け合いは大切だが「公」の力ももっと必要では？
- ・ 仲良しだと思っていた子 全くボランティアに協力してくれなかった がっかりした